

第 1674 回（4 月 16 日）

リンゴの品質特性と価格水準

梶 川 千賀子

植物防疫法上の問題から、生果リンゴの本格的な輸入は行われてこなかった。しかし、1993 年 6 月にはニュージーランド産リンゴが、1994 年 8 月にはアメリカ産リンゴが、防除体制が確立されたとして輸入が解禁された。現在、オーストラリアが輸入解禁申請を行っているほか、フランスも対日輸出に意欲を示しており、今後、生果リンゴの輸入解禁地域は拡大していくものと思われる。

このような状況から、輸入解禁当初、国内産リンゴの消費や生産に対する影響が懸念されていたが、品質に比べて価格が割高であったことから、輸入リンゴの需要は低迷している。輸入リンゴに対して国内産リンゴが競争力を有するためには、価格ばかりではなく、品質の重要性が指摘されているが、解禁初年度の輸入状況はこのことを裏付ける結果となっている。

本報告では、果実栽培における品質判定指標である糖度、酸度、果汁量等の物理特性値が、市場の価格形成にどの程度反映されうるかという問題をヘドニック・アプローチから分析した。さらに、推計されたヘドニック価格関数に輸入リンゴの品質データを代入し、市場が国内産リンゴと同等の品質評価を行った場合に期待される、輸入リンゴの仮想的な価格水準を推計した。これらの推計を通して、国内産リンゴと輸入リンゴの品質格差を定量的に明らかにし、国内産リンゴがどの程度の競争力を持ちうるかを考察した。

輸入リンゴの初年度卸売価格は 230 ～ 500 円/kg であり、輸出国や品種によって大きなばらつきがみられたが、これを同時期の国内産リンゴ価格と比べると、3 ～ 4 割程度割高であった。輸入リンゴに国内産リンゴと同じ品質評価を適応し、推計したヘドニック価格

関数より換算し直してみると、輸入リンゴの推計価格は 180 ～ 230 円/kg の水準となる。この計測結果は、これまでの輸入リンゴの価格形成がかなり割高な水準であったことを意味している。輸入初年度の各品種の 1 個当たり果実重は 130 ～ 350 g であり、1 個当たり店頭価格は 70 ～ 150 円であった。ところが、推計価格から、輸入リンゴ 1 個当たり価格を算定すると 36 ～ 47 円となる。果樹試験場盛岡支場の輸入リンゴの品質評価では「1 個 50 円程度の値段で売られればかなりの脅威となる」と評価されたが、本稿の推計価格は果樹試の食味試験の評価と一致している。

このことから、今回の輸入リンゴは日本市場において高価格で取引されたが、品質水準からかけ離れたこのような価格設定では、輸入リンゴが取扱数量を伸ばすことは極めて難しいと思われる。逆にいえば、輸入リンゴの価格低下が図られると、国内産リンゴはまず品質の劣るリンゴで輸入品の価格競争に直面することを意味しており、国内産地としては、糖度の向上などの品質向上を図ることが緊急の課題であることを示唆しているといえる。

輸入解禁以降、国内産地は高品質化と低コスト化の双方の努力を図っているが、推計結果では、低コスト化においても品質水準の維持が極めて重要であることを示唆している。

輸入リンゴには、なお検疫処置にともなう殺菌剤の残留問題やワックスがけなどの安全性問題が残されており、今後、価格の設定問題と同時に、安全性を含めた高品質化をどれほど図れるかが、国内産リンゴとの競争において、重要なポイントとなろう。